

の面でも、都市交通の主役で、カナダにおける最も一般的な輸送手段といえる。カナダ全体の全長九十万キロ近くの道路のうち、半分以上は都市およびその周辺地域に集中しており、また都市交通の約八割は自家用車によっている。しかし自動車の高度利用は、交通渋滞となつてはね返り、新しく建設された幅広い高速道路も、たちまち混雑してしまうというイタチごつこを演じるようになった。トロントでは、世界で初めて交通の流れをコンピュ

### 遠・中距離の旅客輸送に

## VIA鉄道

バンクーバーからモントリオールまでのおよそ四千八百キロ、カナダの雄大な大自然を、三泊四日かけて走り抜ける大陸横断旅客列車――。

このビア鉄道(VIA)が生まれたのは一九七七年一月のことである。かつてカナダ西部へ多数の開拓者を運んだ二大鉄道――



カナダ国有鉄道(CNR)とカナダ太平洋鉄道(CPR)の旅客部門が、自動車の普及、道路網の整備によって利用者が激減し、採算が取れなくなった。連邦政府は赤字路線を補助金でテコ入れたが、事態は悪化の一途。そこでCNRとCPRの、

ーターで制御するシステムを採用したが、問題の解決には至っていない。

モーターセイションは交通渋滞のほか、大気汚染やエネルギー問題への懸念も引き起こした。そのため、新たにバス、地下鉄、路面電車といった公共輸送手段が見直されるようになった。

例えば、オンタリオ州では、一九六〇年代に州政府がトロント市地域でGO(オンタリオ州政府の略称通勤列車を導入し、また州の都市輸送開発公社(U

通勤列車業務を除くすべての旅客業務を統合して、国営の旅客サービスを行うことになった。その結果創設されたのが、ビア鉄道会社(VIA Rail Canada Inc.)である。

ビア鉄道は、CPRとCNRの線路および車両を借りて、大陸横断列車のほか、主要都市間の旅客輸送列車を運行し、また米国のアムトラック(全国鉄道公社)と連携してバンクーバー―シアトル間、モントリオール―ワシントンD.C.(ニューヨーク経由)間の相互乗り入れも行っている。昨年はボンバルディア社製の軽量・高速・快適列車(LRC)をコーチ(座席指定車)五十両、機関車二十二両導入し、サービスの改善を図っている。

大陸を横断するカナディアン号とスター・コンチネンタル号は、リクライニング式の指定席、上・下寝台、ルーメット(一人用寝室、ベッドルーム(二人用)食堂車などが完備しており、快適な旅が楽しめるようになっている。

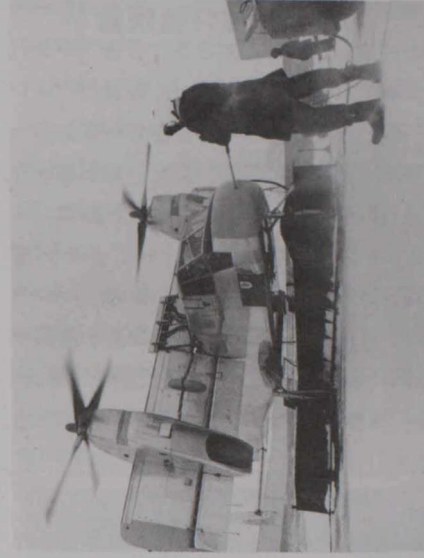
### 航空

TDC)が開発した軽量車両(CLRV)を従来の路面電車と取りかえた。エドモントンとカルガリーでも、軽量快速の近距離電車(LRTC)を走らせており、またトロント近郊のスカバラでは、UTDCが開発したリアモーター式快速中量旅客輸送システム(ICTS)を、三年内に導入する予定である。

地下鉄は特にモントリオールのメトロが有名だが、トロントでも広く利用されている。

カナダの国内および対外的距離を縮め、物や人の輸送を大幅に便利にしたのは、何といても飛行機だ。カナダでは、一九二〇年代から三〇年代初めにかけて、第一次世界大戦に参戦して帰ってきたパイロットたちが、北部の奥地へ鉱物採掘機器、薬品、郵便物などを輸送し、探検家や鉱山師、測量士などを運んだ。ブッシュ・パイロットというのがそれである。

その後、世界は航空機時代を迎え、カナダも一九三九年のトランスカナダ航空(TCA)の創設以来、航空輸送網を急速に発展させてきた。現在では、全国および国際路線をもつエア・カナダ(AC)とカナディアン・パシフィック(CP)のほか、五つの地方航空会社(そのうちパシフィック・ウェスタンとノルデアは国際線も運行している)、そして主に遠隔地を飛ぶおよそ六百の航空会社が、網の目のような航空輸送路線を敷いてい



カナダ北方では垂直離着陸機(VTOL)が活躍する。

る。一九七九年の登録機数は約二万二千機で旅客、貨物輸送のほか、飛行訓練、農業散布、牧牛などの移動、そして漁業、わな猟、林業、建設、製造業、通信、探査、レクリエーションなどにも利用されている。また孤絶した僻地、特に北極地方では、航空機は人々と物資を運ぶ重要な輸送手段となっている。

カナダを代表する二大航空会社のうち、エア・カナダはTCAを前身とする国営企業。国内、米国、アイルランド、英国、ヨーロッパ、バミュータ、カリブ海諸島のおよそ六十都市に運航している。民営のカナディアン・パシフィックは、一九四二年に中小の航空会社十社が合併して創設されたもので、バンクーバーを本拠に日本、香港、ハワイ、フィジー、オーストラリア、ヨーロッパ各地、中南米、カナダおよび米国の諸都市に路線を持っている。